

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第8回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

（1）自主的審議事項について

3 開催日時

令和8年2月4日（水） 午後6時30分から午後7時45分まで

4 開催場所

金谷地区公民館 集会室1・2

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）

- ・ 委 員： 村田会長、阿部副会長、長副会長
浅野委員、大瀧委員、大西委員、小竹委員、小林委員、小山委員、
白石委員、星野委員、益田委員、宮越委員

（欠席2人）

- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【小池副所長】

- ・ 滝澤委員、吉野委員を除く13人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【村田会長】

- ・ 会議の開会を宣言

- ・ 会議録の確認：星野委員、益田委員に依頼

— 次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項について—

【村田会長】

次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項についてに入る。

事務局に説明を求める。

【小池副所長】

- ・ 資料1により説明

1番について、事務局と会長、副会長で事前に話し合った中では、あまり大きいテーマにしてしまうと地域協議会ではまとめきれないのではないかという心配があるということであった。一番大事なことは、金谷山の自然の中で、安心して遊べる公園にすることではないかというような話をしていたが、本日はこのテーマについて、もう少し深くご協議をお願いしたい。

また、2番の金谷区カルタの検討だが、こちらは前回の会議で、これに取り組むのか取り組まないのかを検討しようということになった。前回会議で出た意見をまとめたので、これについても検討課題をもとに話し合っていたきたい。

— 駐車場の緊急除雪に伴う車移動のため会議中断—

【村田会長】

まず、自主的審議事項のテーマについて、話し合いたいと思う。

資料1のテーマについて、皆様方のご意見を伺いたい。ここにあるテーマを、全て自主的審議事項にするというわけにもいかないなので、意見を出していただきたい。

【浅野委員】

あまり大きいテーマにしたくないということ、それから、自然の中で遊べるような金谷山公園の活性化というふうに聞いたのだが、そうすると、金谷地区の人たちと上越市の近辺の人たちが対象と考えていると思う。最初は小さいところから始め

たほうが、話がまとまりやすい感じはする。具体的にどうということはまだよくわからないが、一つは、この中でヨーデル金谷が全く出ていないのは、それはそれなりのお考えがあったのか。私の考えとしては、そこに大きな道路の山麓線が走っている。この近辺の通りで目につきやすいのは、公民館とヨーデル金谷なので、そこを一つの吸引力を持った施設として考えて、そこから金谷山を発展させてもいいのかなというふうな気もしたから、ヨーデル金谷と公民館の建屋をテーマの中に入れた考え方のほうが、私はしっくりくるような気がする。

【小池副所長】

前回の会議に浅野委員はいらっしゃらなかったが、公民館やヨーデル金谷に関係した意見も出ていた。テーマに持ってくるという話までは行かなかったのも、ここには載っていない。一つのよい意見だと思う。

【小林委員】

今回、資料1にまとめて箇条書きになっているが、正直、前回の話の中では大きなテーマを決めて、みんなのアイデアを盛り込もうという話になったと理解している。ただ、現実的ではないこともあるかもしれない、我々だけではできないこともあるかもしれないというときに、行政も巻き込みながらどうやったら形にできるのかというのを大きな流れの中でまず組み立てて、我々からやれることからやっていくという話になったと私は理解していた。

今日ここでいきなり大きなテーマについては、ちょっと我々の分相応ではないのではないかとこのところから始まったわけだが、可能か不可能か別にしてみんなのアイデアを今まず詰め込もうと、その中でタイトルとして金谷地区振興プランなど、一つ大きな看板を掲げて、その中に皆さんのアイデアを詰め込んでいって、我々だけではなく関係各種団体、行政を巻き込みながら、現実的なものも含めてどうやって進めていこうかという話になるものだと思っていたのだが、その進め方とは異なるのか。私だけが誤解していたのか、ここにいらっしゃる皆さんがどう理解していたのかわからないが、どうなのか。

【村田会長】

事務局の見解はどうか。

【小池副所長】

前の会議の時に、皆さんから意見を出していただいたが、その後の会長、副会長と事務局の打ち合わせの時に、少し冷静になって考えると大きなテーマに地域協議会で取り組むのは結構大変ではないかという話があったというだけで、皆さんがやはり大きいテーマに取り組もうと決められるのであれば、それでよいと思う。

【小林委員】

大きいのをやろうという訳ではないが、それぞれ皆さんが描いていたものを一回出したのだから、それを「大きいテーマはやめましょう」と決めるのはちょっとどうかなという気がする。やはり、1回皆さんが思っていることを全部吐き出した上で、その中で具体的に詰めていく中で、可能、不可能が出てきてもよいと思うし、できれば前回の会議の続きをやったほうがよいので私は思っている。

【村田会長】

事務局とも打ち合わせしていく中で、テーマを決めたいということが先に出ていた。だから今回このような進め方になっている。

【小林委員】

テーマとしてここに箇条書きになっているものを一つ何か選べということなのか、私はもう少し広義に捉えて金谷地区振興プランなど、そういう一つの言葉は言葉でよいと思うが、その中にいろいろなピラミッドができて構わないと思う。だから、まずはテーマを掲げる。その中でジャンプ台であったり、大きなものの話も出たが、それはそれで金谷山を中心として、こんな未来があったらいいなというのを描くべきなのかなと思う。

【村田会長】

このような形のテーマを上げるのも小林委員が言われた総合的なことも、究極的には一緒だと思うが、今回のシナリオでは、この中からテーマを選びませんかという進め方だった。

【小池副所長】

この中から選ばなくてもいいので、組み合わせるなど協議をお願いしたい。

【小竹委員】

どうしてもテーマというと、何か絞らなければいけないとか、一つにまとめなければいけないという思考になってしまうので、あくまでキーワードとしてここに書いてあるものを、これから組み立てていくパズルのベースの材料の一つとして大切にしたいと思う。テーマにすると、パズルのベースを一回まとめて何か作り上げなくてはいけないというふうになってしまうと思うが、キーワードだと、しっかりとこうして、またいつでも振り返ってこんなキーワードがあったよねとまた戻ったときにそれが確認できるものとしては、残しておきたいと思うので、今の時点で一つにまとめていきたいとか、絞っていききたいとかはしなくてもよいのではないかと思う。

【村田会長】

はい。

【小林委員】

ちなみに前回の会議で皆さんから出たキーワードをいろいろ集めて、自分なりのタイトルを作ったので参考までに披露したいと思う。「金谷山アソビバ計画、親子3代で遊びつくせ」というのを自分の中ではタイトルにした。別にこれに決まるわけではないが、みんなが考えていることをいろいろ集めると、3世代でのいこいの場になって、アクティブスポーツもウインタースポーツも、花を植栽したりすることで、親子3世代で集まれるスペースの中心に金谷山があるというようなイメージで進めていけば、その中でやるべきことがたくさん出てくるのではないか。

【村田会長】

金谷山、遊び場計画、親子3代で遊び尽くせ。キャッチフレーズみたいである。

【小林委員】

これで決まりではないが、小竹委員が遊びのテーマパークという言葉が言われたので、それをちょっとキーワードにして、イメージとするとそういうことなのかなと自分では感じた。

【村田会長】

前回は話が出たが、ここのテーマの二つ目、金谷山エリアを中心とした金谷地区振興プランという大きなまとめがあるが、そういうことか。

【小林委員】

タイトルとサブタイトルみたいなイメージである。

【村田会長】

金谷地区振興プランは少し仰々しいか。

【大島所長】

仰々しいというか、硬い役所的な感じはするかと。

【小林委員】

メインタイトルとして硬くあって、さっき申し上げたようなものがサブタイトルとしてあると、わりと入り込みやすいというか、その中に皆さんからの具体的な小プランがある。それを総合的に自主的審議として詰めていけばいいのかなと考えている。

【小池副所長】

小林委員の意見をホワイトボードに書かせてもらったが、とてもよいと思うので、これについて皆さんの意見をもらったかどうか。

【村田会長】

具体的な意味合いの言葉が小林委員の発言の中に含まれていると思うが、こういう考え方で皆さんいかがか。金谷地区振興プランとは仰々しいと言えるかもしれないが、宮越委員どうか。

【宮越委員】

取っ掛かりとしては、大きなテーマに関して、皆さんの意見を聞いていると、そんなに大きく違っていかないような気がする。表し方、飲み込み方の違いはあると感じる。今回事務局のまとめたメモを見ると、今日の会議のテーマの選定、議論ということだが、最終目標というか、取っ掛かりがカルタなので、カルタの前提としてテーマをどうしようかということで、今、小林委員が言われたサブテーマからして、カルタにすぐにはつながらないという気がする。

今後、検討していく過程で、カルタの具体的な作り方も多分検討になってくる。そうしたときに、このテーマも検討して、ある程度暫定的なテーマにする。中身ができてくると、当然最初に戻ってテーマを変えなくてはいけない、また、もっと良

くしなくてはいけないというのもあるので、こういうプランを作るというのを手段として、フィードバックしながら良くしていくというやり方をするので、あまりテーマを固定的に考えないほうがよいのではないかな。変わってくる可能性はあると思う。先ほどから話も出ているし、前回でも出ていたが、具体的にこれを形にしていくなると、誰がやるのか、金をどうするのか、そこらへんが多分ネックになってくることを考えると、その状況に合わせて内容もテーマも少し構わなくてはいけないと思う。だから、まずは進むために仮のテーマということで進めていったほうがいいかなという気はした。

【村田会長】

仮のテーマということで、いろいろ煮詰めていけば、またテーマを変えなければいけないということになるかもしれないし、事務局、そういう形で取り決めてよろしいか。

【大島所長】

手続き的なテーマという側面もあるが、皆さんがお話しをしていくうえで、いたい私たち何のことについて話をしているのだろうといったときに、例えば、大きく金谷山のというのはあると思うが、では、金谷山をどういうふうにしていきたいのかというところで、大人も子どもも来れるような遊び場にしようとか、そういうイメージを皆さんで共有してもらうための言葉がほしい。まさに、浅野委員も言われたが、対象は親子だがどこからでも来てもらう人たちなのか、それとも市内の人たちなのかとか、そういうふうにだんだん具体化と言うか、この言葉に対して対象とか、働きかける先とかを考えるためのイメージのものなのかなと思うので、皆さんこれでそういうことの足りるということであれば、こういう形で話を進めてもらえばいいのかなと思う。

【村田会長】

あくまでも仮という形だし、終局的には一緒になると思うが、所長も言われたように、この言葉を旗印にして取り組んでいくということで進めたいと思う。

【小池副所長】

仮にというが、今、作っていただいたテーマは、公表してよいものか。今、金谷

区地域協議会がこのことについて話し合っていると、市役所内に情報提供するのも
そうだし、ホームページに載せたり、地域の皆さんにお知らせをしてよいか。

【浅野委員】

「(仮称) 金谷山遊び計画」にして話を進めているとしたらどうか。

【大島所長】

計画自体が、まだ(仮)だということで、そういうことについて話し合っている
ということで、皆さんが了承されていればいいのではないかな。

【宮越委員】

小林委員の出されているのは、非常によいと思う。変わる可能性はあるだろうと
いうのは、例えば、金谷山のこのテーマに絞った、今後のカルタに進んだ時に、カ
ルタの50音になるテーマを金谷山周辺から見つけるのは、結構大変なのではない
か。そうすると、その段階で議論としては、少し範囲を広げようとか、高田に持っ
ていこうとか、海があってもというような話になった時には、この金谷山遊び場計
画に収まらなくなってくるというようなこともちょっと頭で考えた。

とりあえず外にアナウンスするときには、今後の検討によって変わる可能性もあ
るとか、仮称でもいいと思うが、その辺の前提条件がついていたほうがよいのでは
ないか。地域協議会が出している、検討している材料だから、金谷山中心に何かや
っていると。そこに今度は収まらなくなったときには、かっこ悪いと思う。

【小竹委員】

小林委員の計画を素晴らしいと思っている。確認だが、金谷山のカルタは、これ
はこれで独立した具体案の一つと思っていたのだが、この遊び場計画の中にこれを
煮詰めていったところの最終地点にカルタがあるということか。

【小林委員】

カルタは、金谷山のみではなくて金谷区全体で、何のためという課題があったと
思うが、前々から言われている金谷区、こんなに広くて本当に金谷区の一体感って
何だというテーマに対して、もっとみんな金谷区のことを知ろうよ、その学びを再
発見しろよという狙いなので、金谷山に限定せず、カルタに関しては金谷区という
器で考えているので、委員が言われたように、今回の金谷山を中心にした活性化の

計画と金谷区カルタというのは別で二本柱で行きたいと考えている。

【村田会長】

そのように私どもも考えているが、事務局それでよろしいか。

【大島所長】

いいも悪いも事務局が意見することはないが、小林委員のご意見について、委員の皆さんがご理解されるのであればよろしいかと思う。

【宮越委員】

今の考え方でいくとカルタは一つの要素で、この金谷山遊び場計画というのは非常に限定的なテーマになっているので、ちょっと違和感がある。要するに金谷地域全体をとというふうには捉えられないテーマになっていないか。金谷山に限って遊び場計画と出してしまうと、この金谷区地域協議会というのは、北は上門前、南は滝寺と非常に広い範囲で、そういった区のお住まいの方からすれば端っこなので、結局は金谷山だけかということにならないか。

【小林委員】

前からの議論で金谷区は広い。市街地から中山間地までである中で、この金谷区のシンボルは何だろうと言ったときに、やはり真中にあるのは金谷山だから、物理的にではなく皆さんの心の中にある中心は、金谷山なのではないか。先ほどお話しがあった公民館ができ、金谷山公園があり、BMX場があり、ヨーデル金谷がある。その中で山麓線の主要交通の要所でもあり、金谷区の中心で何かシンボルと言ったら、やはり金谷山なのではないか。という考え方が前期からの検討の中でやってきた。

【宮越委員】

そうすると、このカルタというのは検討する中で、金谷地域の振興というのがあるのだとすれば、別物ではないか。

【小林委員】

別物である。

【宮越委員】

そうするとこのテーマは、金谷山に限ったテーマなので、ふさわしくはないと思

う。

【白石委員】

金谷地域とした方がよいのではないか。金谷地域の遊びがテーマ。そうすれば、カルタも作れる。

【小林委員】

カルタは入れてもらわなくてよい。テーマとして別だと思っていただきたい。金谷山の振興計画が一つ、それとは全く違ったアプローチとして、金谷区の一体化を調整するためのアイテムとして金谷区カルタというふうに捉えていただきたいと思っている。

【宮越委員】

それであれば、このテーマは賛成できない。金谷区全体であるべきだと思う。例えば、歴史的文化的、金谷山もよいものを持っているが、上門前はもともと加賀街道の関所の役目をした歴史的な価値もあるし、下正善寺も同じである。そういった地域を全部見えなくしちゃっているという、金谷区は金谷山中心だよというふうにするのは適当ではないと思う。

【村田会長】

私どもは、ずっと金谷地区のシンボルは金谷山だというふうに考えて、本日まできている。それは28町内会すべてにスポットを浴びせることは不可能ではないか。だから、金谷山にスポットを当てて、金谷山から活性化を図っていこうというのがスタートだったと思う。全体のことを考えていないわけではなくて、金谷山にスポットを当てて、ヨーデル金谷があるし、金谷地区公民館がここに来るし、そしたらここをまず活性化していくことが全体につながるというような思いを持って話し合いをしてきた。

【宮越委員】

それは前期の地域協議会が、金谷山だけに限ってきたということか。

【村田会長】

金谷山にだけではなくて、金谷山にまずはスポットを当てて、いわゆる金谷山を起点として、金谷地区公民館ができる。その時にそれらを含めて活性化していった

らどうだろうというふうに来てきたと思う。滝寺の名所もあるし、南の上門前もあるし、それは承知している。だけど今、そこにスポット当てようとしているわけではない。全部に当てることはできないから。

【小林委員】

その全部に当てたいというところも含められると、カルタはやはりよい要素にはなると思う。皆さん、それぞれの地域からこんなのがあつたよという情報がいっぱい集まってくると思う。できれば並走したい。

【浅野委員】

一つの言葉で、皆さんが同じようなイメージを抱けるようなテーマがいいのであれば、私は金谷山のほうが、皆さんイメージできると思う。金谷区とか金谷全体にしてしまうと、皆さんそれぞれにあそこだろうというのがあるので、ここは金谷山のほうがいいような気がする。ただ、遊び場計画は、ちょっとダサイ気がする。

【小林委員】

遊び場という言葉がすごく気に入ったのだが。

【浅野委員】

計画ではなく遊び場プランとか。

【村田会長】

金谷山振興計画ではダメか。

【浅野委員】

上から2番目の金谷山エリア中心として、金谷山中心のプランだけならちょっと違和感がある。あとは、みんな同じようなことを言葉を変えて言ってるだけである。金谷山の自然の中で遊べるようにしたいというようなことがあるので。

【宮越委員】

2番目の言葉は、私が前回の会議で言っている。もうお分かりだと思うが、金谷山に限った振興というのは、この協議会で語るべきことなのか。村田会長の言われる検討経緯で少なくともそういうこともあるだろうが、金谷山中心の議論を進めてきたから、今回はこの金谷山の振興を中心としたテーマでいったほうがよいのではないかということかと思う。経緯がそれであれば、私はそれでいいと思

うが違和感を持っている。合併した上越市の中で例えば高田区で高田公園だけ焦点を当てた時に、他の区の方はどう思うか。それと同じである。そこに住んでいる、または近い人間なら嬉しいとは思う。特に私が感じるのは高田公園を表に持ってくると、直江津の人は強く反発する。なぜかという五智公園があるから当たり前である。だからそういった内容でまとめたときに、金谷区全体の振興プランにいくら地域を広げて、内容を広げてと言っても、そうではないだろうとしかとられないのではないかなという気がする。

【村田会長】

金谷山は他にどこにもない。スキー発祥の地、金谷山だから。

【小林委員】

公民館ができた暁には、金谷区の公民館だからそこからの情報発信ということテーマに今までいってきている。今、まだあんまりできていないが、金谷区の各地域の行事であったり、その写真であったりいろいろなものをもっと掲示してもらったり、今まで正善寺工房でやっていたようなものを、出張公民館とかでやってもらうのもいいだろうし、せっかく公民館があり、金谷山がありという中心エリアなので、今ご指摘いただいたような金谷山以外にも金谷区にはいいところがあるんだというのも含めて、もっともっと金谷地区公民館を中心に情報発信していくというのも大事な要素だと思うので、その中で、まずは金谷山で整備させていただきたい。

【小竹委員】

我々は金谷区地域協議会なので、もちろん金谷区全体ということは十分理解できるが、協議会として何か議論を進めていくにあたって、やはりどこかにスポットライトを当てて、そこから具体案を出して進めていくということは、間違った方向ではないのかなと思う。別の区の話になってしまうが、例えば高田区であれば、雁木通りに焦点を当てて雁木のことを議論したこともあるし、高田公園のことに対して議論をしたこともあった。そういうことを踏まえると、金谷区の委員がシンボルとなる金谷山のことについて、ちょっと焦点を絞って議論を進めて、自主的審議をするということは大きく問題ないのではないかなと思う。

【村田会長】

そういう意見を踏まえながら取り組むということによろしいか。事務局、そういう決め方でもよろしいか。

次に金谷区カルタについて進めるべき方向性を、皆様方からのご意見を聞いていきたい。

【小林委員】

前回いただいた課題について、私の考えを述べさせていただきたい。子どもはカルタで遊ばないのではないか。確かに一回やれば終わりかもしれない。ただ、今回私がイメージしているのは、自分たちが身近なことで、まずこの読み札を作る。自分が考えた読み札だとその名前を載せる賛否はあるが、希望する方の名前、ペンネームは載せた方がいいと思っている。一生の思い出なので作ることに非常に意味がある。

名前の公表については、希望者、ペンネーム、なんでも構わない。自分が考えた句が形として残るといふ喜びは、あったほうがいいのではないかと考えている。誰が中心になるか、費用負担については、金谷に存在するどこかの組織とタイアップするしかないとは思っている。金谷区の一体化の調整ということに対して、皆さんがまた新たな再発見につながるためである。一回見返して遊ばないかもしれないが、故郷を離れた人にふるさと納税の返礼品とかというのも面白いのではないかと思う。

イラストについても、私が考えているのは、読み札が決定した段階で、その読み札に対してのイラストだったり、写真だったり、そういうものをまた募集して、オリジナルのものを付けさせていただければ、倍の人が参加できる。

金谷区のまだまだ知られていないことを、もっとアピールするというきっかけにも利用していただけるのではないかと考えている。私の勝手なプランは、今年春から読み札を公募したいぐらいである。そこに関しては、そんなにお金はかからないので、まず読み札が本当にいいものが集まるのかどうか、その読み札募集というのに関しては、これをカルタにするべく計画しているというぐらいに留めておいて、実際、機運ができてきたら今年の秋の予算に向けて動けばいいのかなと考えている。カルタは完全に作り上げますと言い切らずに、作りたいから呼び札考えようよというところから始めるのもいいのかなと考えている。

【小竹委員】

カルタについてだが、50音でなくてもいい。全ての言葉の頭数を50音で探すと、金谷地域の中からだとちょっと難しいなということが出てくると思う。話はそれるが、我が家に「となりのトトロ」のカルタがある。そのカルタはストーリーの中の名台詞がカルタになっていて、頭の文字は、あから始まるかとか、読み札がいくつもあったりする。名台詞とイラストで、結構子供たちが、まだ字読めなくても、なんとなく楽しめたりしている。

そういう考え方でいくと、必ずしも50音にこだわらなくていいのかなというふうに思ったのが一つと、これをカルタで遊ぶ人、今の子どもはカルタで遊ばないのではないかと思うところだが、逆転の発想で年配の方たちが楽しめるようなカルタにしてもいいのかなと思った。どちらかという時間的に余裕のある年配の方たちのコミュニケーションのツールとしてカルタがあるというのは認知症の予防にもなったりもするしいのかなと思った。一つ懸念は小林委員もご存知だと思うが、小学校のカルタを上越市内で作ろうという活動をしている団体があり、1月24日までクラウドファンディングをしていた。目標金額達成をして、おそらくこれからできていくのではないかなと思う。上越市の中では、カルタをしている団体がある中、比較的若い方たちが中心となってやっているので、そこと重なってしまうと、今の時点で二番煎じになってしまうので、そこが懸念点ではある。

【村田会長】

いろいろな考え方ややり方があり、どうなるかという心配もあるが、私たち地域協議会としてどうしたらよいか決めたい。

【大西委員】

今中高生ぐらいで、ダジャレスタンプというのが流行っていて、おじさんたちはダジャレを言われるので、年齢が高いのであれば、そういうのもあると思う。小中高生は、みんなタブレットを使って自分でスタンプを作っている。イラストも割と簡単に作ったりしている。小林委員がおっしゃっていた、絵をその人たちに合わせて作るというのは、不可能ではないと思う。ラインのスタンプで、いつも家庭内で使う、迎えに来てとか、ご飯よとか、そういうのをいくつか作って、簡単にそれが

できてしまうというのものもあるし、切り口を変えていけばいい。

切り口を変えるだけで、例えば、渋谷で怒怒怒ランドというのがあって、普段の怒っちゃうというのを全部コンセプトで集めて、それをパネルにして、大体それがくすって笑っちゃうような内容だが、そういう怒りというのを切り口にして集めたものがある。あるあるというのを集めたものもあるし、切り口を変えていくだけで、新鮮なものになっていくのではないかと思う。テーマは例えば金谷山遊び場計画で、その下に第1弾金谷山、第2弾カルタにしたらどうか。大きな傘があって、金谷山遊び場計画の親子3世代遊び尽くせというのがある、あとカルタもあるというふうにしたら気持ちがすっきりする。

【小林委員】

私が言ったのは、メインテーマに金谷地域振興プラという言葉があって、サブテーマとして柔らかい言葉がはまってくると見た人が創造力を働かせられると思う。そういう意味で、それをサブテーマにどうかという話をした。

【大西委員】

サブテーマを付けていただくことによってわかりやすいと思う。こうだなというイメージがしやすいので、その言葉は大事だと思う。

【村田会長】

金谷地区振興プランが頭で、そこにまず金谷山遊び場計画とつながる。2番目にカルタ作成と。

【小林委員】

それを中に入れるか、別テーマとして考えるか、まだ私も何とも言えないが、その振興プランのアイテムのいくつかの中の金谷山遊び場計画とカルタというのは、成立しなくはない。

【村田会長】

サブテーマと言っていたので、その頭に金谷地区振興プランとして、まず、金谷山遊び場計画、親子3世代で遊び尽くせというようなサブタイトルを入れて、それと別になるか、ならないかは分からないが、金谷区カルタの作成ということで、皆さんに議論していただいたが。

【小林委員】

一つのテーマの中に二つの舞台が動くという感じになるのか。そのほうがよいのか。

【大島所長】

テーマについて協議して、だんだん絞れてきたが、その中でも考え方の差が少しあるのかと思う。もう少し今日の話の踏まえて、協議を続けたらどうか。

【村田会長】

いろいろ議論したので、次回に金谷区カルタを取り組もうという総意を皆さんから測ってもらおうということで、今日決めないでもかまわないか。

【小林委員】

自主的審議事項が二つ独立していれば、例えば、カルタだけはやめましょうという選択肢があるかもしれない。ところが大きな一つのテーマについて、その中に小さいテーマが二つあると、一つの審議事項として二つをやっていくという形に決まると思うが、それが運用上しやすいのかどうか申し上げた。

【村田会長】

大きなテーマの中に二つのタイトルがあるほうがいいのか、

【小池副所長】

どちらでも構わない。

【小林委員】

大きいテーマの中に二つ入れるとなれば、二つとも実行する前提で進めましょうという結論になっていくと思う。この段階で。

【大島所長】

委員の皆さんが話し合っただけであればよい。

【宮越委員】

小林委員が言われたのは、今後検討をしていくと実施の可能性（主体・資金・行政連携）に関する懸念と対応案実行の可能性とかどうやったらいいかというのは具体的に話に出てくると思う。小林委員の話の中でもカルタ作りについては、カルタは誰が中心になってやるのか、金はどうするのか、予算要求というのは行政に

対してそれが実現できるのかも含めて、その辺りの見極めが多分出てくるだろうと思う。例えば、誰がやるか地域協議会が主体になってやるわけではないのだから、実施主体を結成するのか、またはどこかの団体を説得してやるのか、その部分で具体的に難しさが出てくる。そうすると悪く言うと、現実的には進められないねという可能性も出てくる。そうした時に最初のテーマ、大きなテーマに遡って、どういうテーマでもう一回見直そうか、見直そうかというのが多分出てくるんじゃないか。

例えば、このカルタは小林委員が具体的に検討課題を上げておられるので、皆さん誰が見ても中で三つや四つ、現実的には大分心配する要素が入っていると思う。一番は誰がやるのか。ここで検討するのはいい、アイデアを出すのはよいが、それを実行する部隊は誰なのというのが、私、この話をずっと聞いている中でも一番気になる。

【小林委員】

私は観光協会にお願いしたいと思っている。お金のことは別で、ただ、観光協会から名前だけを貸していただいて、チラシと読み札配布とかまでご協力いただいて、実際形になるとすると、地域独自の予算で7割は行政にお願いすることはできないので、あとの3割をどう集めるかである。今は一方的な話なので、地域のことをやるのだから協力しようかという団体が、まだどこにも当然声をかけていないので、動き出した段階で、名前いいよって言ってくれるところがあれば、一番ありがたいと思っている。

【白石委員】

今、ホームページで上杉謙信の漫画が出ている。私はあれを見ていいなと思ったが、あれはどなたが作ったのか。市で作ったのか。今みたいな問題は金谷観光協会でもやらなくても、そういうのをやろうかなといえ、市のほうでそういうものが、漫画をホームページに載せてやれるという、そういうのもお金はかかっていると思うが、どなたがやったのかなと思って。

【小池副所長】

詳しいことは把握していないが、確か20年くらい前にできた漫画を市の方でデ

デジタル版で見れるようにした。

【白石委員】

市の方で、ついでにレルヒさんの漫画を作っていただいたらいいのと思った。

【村田会長】

この件については今回いただいたことを含めて引き続き話し合うこととする。

以上で、次第2 自主的な審議（1）について終了する。

— 次第3 その他について—

【村田会長】

次第3 その他に入る。

事務局に説明を求める。

【小池副所長】

- ・第9回協議会：令和8年3月11日（水）午後6時30分から 金谷地区公民館

【村田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。